

平成 29 年度防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業成果報告書

教育委員会名：奥州市教育委員会

I 事業の概要（地域の実情含む）

平成 20 年 6 月 14 日に最大震度 6 強を観測した岩手・宮城内陸地震により、本校学区でも土砂災害が発生した。また、かつてカサリン、アイオン台風による北上川の氾濫等で地域が水害に見舞われている。

衣川中学校は、衣川小学校と隣接し運動場を共用している。これにより昨年度は衣川小学校と「緊急時下校マニュアル」を作成し、「緊急時の保護者引渡し訓練」を実施したところである。

本事業では、昨年度の衣川小学校の実践を継承しながら、他の小学校区を含む地域の水害や自然災害全体についてより深く学習し、地域の一員として中学生が担う役割に気付かせたいと考える。

II 取組の概要

1 ねらい

岩手・宮城内陸地震から 8 年、東日本大震災から 6 年が経過し、平成 29 年度の入学生は大震災の年に小学 1 年であった生徒である。震災の体験の風化が危惧されている中、地域や小学校と連携し、震災時の教訓から地域防災を考えるとともに、中学生がその中核となれるよう意識の醸成を目指したい。

2 身に付けさせたい力

ア 地域で発生しやすい災害や身近にある災害の可能性を理解する。

イ 災害時の行動と地域での防災活動について理解する。

ウ 地域の防災活動に参加し、地域の一員としてのできることを確認する。

3 事業の概要

ア 講師を招いての防災講演会の実施

イ 小学校等と連携した避難訓練及び保護者への引渡し訓練の実施

ウ 学校及び通学路、住居周辺の危険箇所についての調査と防災マップの作成

エ 各地区センターと連携した防災訓練への参加

4 取組の経過

時期	取組内容
7 月 20 日	防災に係る講演会①
27 日	小・中合同避難訓練打合せ

時期	取組内容
7 月 25 日 ～8 月 17 日	地域の危険箇所の調査①（自宅周辺）及び夏休み中の防災に関する取組み
9 月 4 日	避難訓練②（地震）及び保護者引渡し訓練
27 日	復興支援活動（陸前高田市）
28 日	避難訓練③（Jアラート対応）
11 月 12 日	地域防災訓練への参加（衣川中央）
23 日	地域防災訓練への参加（南股地区）
28 日	地域の危険箇所の調査②（学校周辺）
30 日	地域の危険箇所の調査③（衣里地区）
12 月 1 日	避難訓練④（火災）
11 日	防災に係る講演会②
25 日～26 日	防災マップ作成①
1 月 26 日	防災マップ作成②
2 月 8 日	活動の振り返り（発表会） 意識調査

5 取組みの内容

(1) 防災講演会

ア 学校防災アドバイザーによる講演

越野修三岩手大学客員教授を招いて、地震や豪雨による自然災害の発生メカニズムや「行動のパッケージ化」など身を守るための対処の仕方を学ぶことができた。これにより生徒は、家族と避難の方法を話し合うなど身近な災害について意識が高まった。

イ 「北上川に関する出前講座」

国土省岩手河川国道事務所水沢出張所の野口暁浩所長を招いて、北上川の治水や衣里地区での水害について写真や資料から学ぶことができた。生徒は洪水が発生した場合の避難のしかたや身近な地域での災害について学ぶことができた。



「北上川に関する出前講座」のようす

2) 小学校等と連携した保護者引渡し訓練

昨年、衣川小学校と連携し、緊急時に保護者への生徒の引渡し方法を確認している。今年度は、衣川中学校区の学校等(衣川中、衣川小、衣里小、あゆみ園)が連携して、実際に保護者への引渡し訓練を実施した。グラウンドを経由して避難場所である本校体育館に迎えに来ていただいた。はじめての試みであったため、渋滞の発生や呼び出し方については、改善点も見えたが、一斉配信メールの活用など緊急時に即した訓練となった。



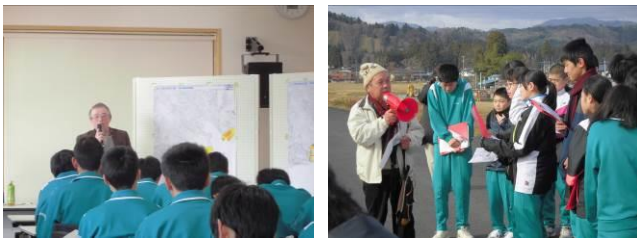
「合同避難訓練」の様子

(3) 危険箇所調べ(まち歩き)

学校周辺(衣川中央)とかつて大規模な水害に見舞われた衣里地区を歩いてみることで、身近な危険を確認するとともに郷土の災害の歴史について学んだ。

学校周辺の「まち歩き」については、地域自主防災会の方と5つのコースに分かれて歩き、学ぶこととしていたが、当日は2名のみの参加となってしまった。

衣里地区の「まち歩き」では、地区センターの方々に協力をいただき、地域の方を講師としてかつて北上川の洪水により水害となった地域について実際に場所を確認しながら学んだ。そして、地区センターで講演もいただいた。



「衣里地区 まち歩き」の様子

(4) 防災マップ作成(自宅周辺危険箇所調べ)

生徒全員が、自宅周辺の危険箇所を夏休み中に調べ、地図に記入したものを4地区ごとに取りまとめて衣川中学校の防災マップとした。生徒一人一人の自宅が含まれる地図を夏休み前に配布し、夏休み中に家族とも話し合いのうえ記

載した。

地区ごとの地図の作成には、2年生生徒が危険箇所についてコメントを記入した。不十分なところはありますが、身近な危険箇所を意識するきつ



かけとなった。

防災マップの作成の様子

- (5) 各地区センターと連携した防災訓練への参加
先般の震災時に、中学生が地域の避難所等において果たした役割は大きなものであった。災害時に適切に行動するためには、自分の地区の防災訓練に参加し、緊急時の地域の方の動きや避難、救助のしかたを学ぶとともに地域の方々を知ることが重要と考えた。

今回は、日程の変更等があり2地区への参加となった。また、休日の実施であったため可能な生徒のみの学びとなってしまったが、地域防災について関心をもつきっかけとなった。



地域防災訓練の様子「南股地区」

III 取組の成果と課題

1 成果

- (1) 防災講演会を開催することで、地震や洪水などの自然災害への理解を深めることができ、災害時の避難などの対応についても学ぶことができた。地域の過去の災害や学校周辺の危険についても気づき、災害時の行動に係る理解も深める機会となった。
- (2) 小学校等と連携した保護者引渡し訓練を実施したことにより、兄弟姉妹がいる保護者の災害が発生した場合の行動について確認することができた。緊急時、保護者が子どもを早く確実に引き取ることができるようにするねらいが達成できた。今後も継続する。
- (3) 危険箇所調べ(まち歩き)と防災マップ作成

を実施したことにより、自然災害発生時に身近にある危険箇所について改めて認識し、家族と災害時の対応について話し合う機会とすることができた。

- (4) 地区センターと連携し、地区防災訓練に参加をすることで、災害発生時の避難場所や地域の活動、地域防災リーダーの方々などを知るとともに、地域の中での自己の役割について考える機会とすることができた。

2 課題

地域防災訓練への参加が希望者のみであり、かつ、すべての地区とならなかったなど、限られた生徒の取組みのものもあった。

- (1) 発表会を行い全校への報告と学習の機会を設けたが、全校が防災意識を向上させるためには、全校体制で臨むことが望ましい。
- (3) 地域の活動における中学生の役割について、地域の方と事前に話し合いをすることが望ましい。